

班員 小野美海 甲斐李菜
宮田あかり 吉永夏菜

指導者 萱野 浩介先生

①研究の動機

現代の高校生は、対人関係の悩みが多いと感じる。そのような悩みを抱えた人に少しでも楽になってもらうために、相談できる環境づくりを考えたいと思った。

②仮説

- ・対人関係の悩みで最も多いのは、**友人間**での悩みである
- ・**友達**に相談する人が多い

③研究方法

①アンケート作成

対象 延岡高校の全校生徒

質問内容

- ①何の対人関係での悩みが多いか
(家族、学校の友達、部活の友達、先生、上下関係)
- ②誰に相談しているか
(家族、友達、先生、誰にも相談しない)
- ②アンケート結果をまとめる
- ③結果を考察し、スクールカウンセラーの方にアドバイスをもらう。
- ④③を基に、悩みを相談しやすい環境づくりについてまとめる

④定義

⑤の結果より、友人関係の悩みに焦点を当てて考えるとする。よって、相談相手についても友人関係の悩みの場合のみとする。

⑥結論

学校で悩みを解決できるような環境を作る。

学校は、友達と過ごす時間が多い

→友達に相談しやすい環境づくり

ベンチの活用

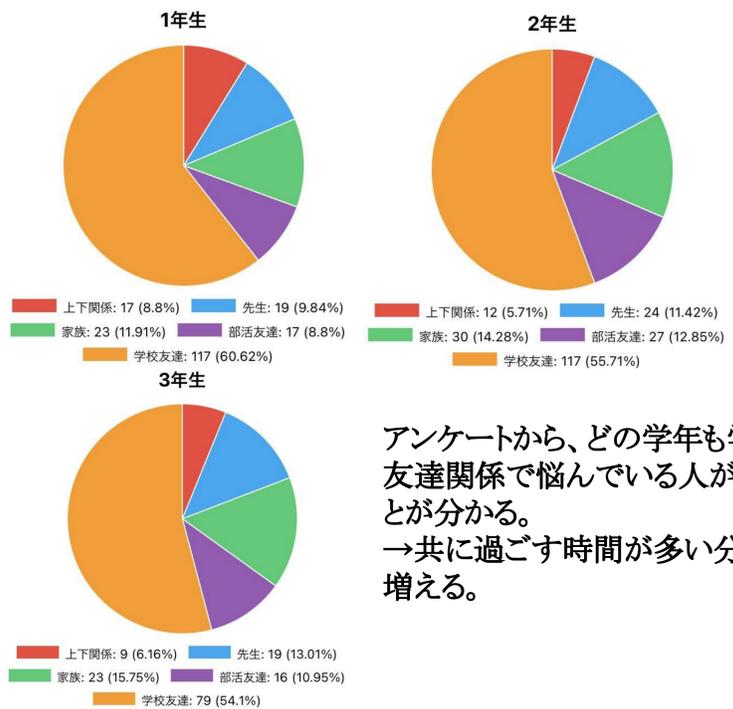
ベンチの座る配置の特徴は、心の距離が近くなるような配置である。

ベンチがみじかにあるものである。

悩みを相談できない人が少しでも悩みを相談できる場になればいいと思う。

⑤結果と考察

○学年別悩みの対象○



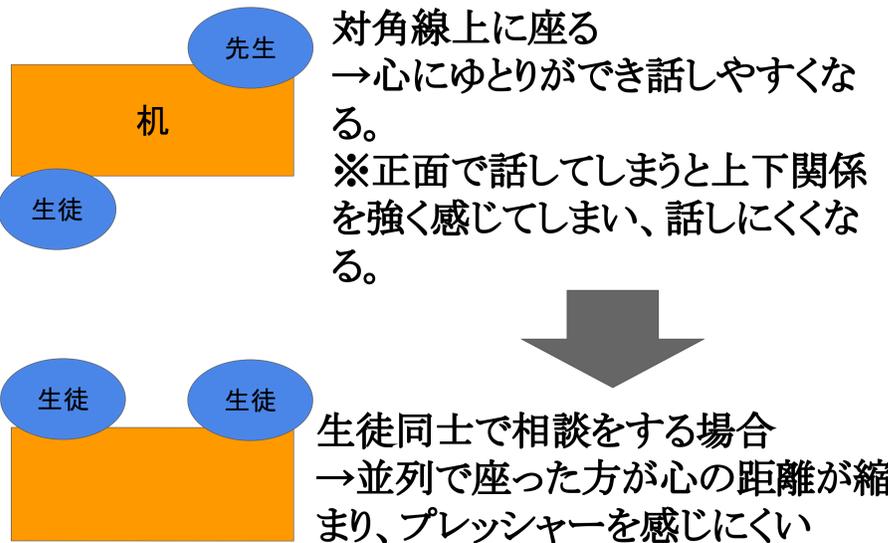
アンケートから、どの学年も学校の友達関係で悩んでいる人が多いことが分かる。
→共に過ごす時間が多い分悩みも増える。

○相談相手○

	1年	2年	3年
家族	22.13%	25.88%	31.37%
友達	28.24%	32.94%	43.13%
先生	1.5%	2.35%	0%
相談しない	48.09%	38.82%	25.49%

全体的に見ると、相談しない人が多い。
3年生で相談しない人が減っているのは、成長するにつれて悩みが明確になる傾向があり、相談する内容がはっきりわかるから。

○悩みを相談しやすい環境作り○



⑦謝辞

ご協力いただいた先生方、アンケートに参加していただいた生徒の皆さん、この場を借りてお礼申し上げます。

参考文献

八木成和 『青年期の対人関係に関する研究』

<https://www.shitennoji.ac.jp/ibu/images/toshokan/kiyo46-10.pdf>

岡安孝弘 『高校生の対人関係場面における認知のゆがみとストレス反応』

https://m-repo.lib.meiji.ac.jp/dspace/bitstream/10291/10981/1/shinrishakaigaku_4_27.pdf